

2018年度 センター試験 英語 リスニング (本試験) 分析

全体概況

試験時間 約 30 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：25 問
難易度の変化 (対昨年)	○ 難化 ● やや難化	○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量 (対昨年)	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

大問数、解答数、問題の分量に変化はなかった。難易度については、後半の問題の難易度は昨年並みである。しかし、第 1 問で、普段聞きなれない語句の聞き取りや、やや複雑な計算が求められたり、第 2 問で応答の推測が困難な問題が多数出題されているといったことから、全体的な難易度は昨年度に比べて「やや難化」したと言える。出題分野、出題形式には変化はなかった。第 1 問としては初めてグラフを選ぶ問題が出ているものの、これまでのセンター試験リスニングでもグラフを用いた問題は出題されていたため、取り立てて新傾向と呼べるものではない。

2016 年度の出題形式の変更以降、センター試験のリスニングは 3 人の会話文が出題されるなど、簡単なものではなくなった。日ごろから聞き取り練習、音読を繰り返して対策をしておく必要がある。特に音読はネイティブスピーカーの発音を手本にして何度も繰り返してほしい。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	短い対話を聞き、答えとなるイラストや数値を選ぶ問題	12 点	問 6 のグラフを選ぶ問題が新形式ではあるが、解答根拠がわかりやすいため平易であった。しかし、skyscraper の聞き取りや、やや複雑な計算が必要な問題が出題されており、第 1 問は全体として昨年度よりもやや難化したと言える。
第 2 問	短い対話を聞き、続く応答を選ぶ問題	14 点	ほとんどの問題で対話文から答えとなる応答を推測するのが難しかった。また、対話の状況を十分に理解することも要求されており、第 2 問は昨年度と比べて難化したと言える。
第 3 問 A	対話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	どの問題も設問と選択肢を確認できていれば、答えを出すことは難しくないだろう。全体として昨年並みの難易度と言える。
第 3 問 B	対話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	時間や方角の聞き取りなど、地図を見ながら解答する問題として極めて標準的な問題である。情報の整理に多少手間取るかもしれないが、難易度は昨年度並みである。
第 4 問 A	長めの英文を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	寮生活の回想を聞き取る問題である。設問と選択肢の読み込みができていれば、解答に苦労しないだろう。聞き取るべき英文も標準的なものであるため、難易度は昨年並みと言える。
第 4 問 B	3 人の会話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	英文自体は聞き取りやすいものの、問 24 は発言から解答を導き出すのに苦労した受験生もいただろう。また、問 25 は 3 人全員の論点をきちんと整理できないと正答を導くのが難しい。全体としての難易度は昨年並みであるが、決して簡単な問題ではない。

